

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194700282		
法人名	社会福祉法人 あおい福祉会		
事業所名	グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)		
所在地	北海道河東郡音更町新通7丁目3番地19		
自己評価作成日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年12月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0194700282-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和5年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前はラジオ体操、午後は機能訓練(棒体操・廊下歩行等)を利用者様の残存能力維持のために行っている。意欲向上のためスタンプカードを作成、スタンプが溜まったら景品(おやつ・ジュース等)と交換している。
利用者様が希望している個々のレクリエーション(塗り絵、点つなぎ・計算プリント等)が出来るよう支援している。
コロナが5類になり、外出も少しずつできるようになったため、天気の良い日は、近くの公園に、お花見に行ったり、アイスクリーム等を食べに道の駅へ出かけたり、気分転換ができるよう支援している。
洗濯物量みやテーブル拭きなど分担して行き、張り合い・喜びのある日々を過ごせるよう工夫している。
レクリエーションを通し話し合いができ、笑いが絶えない環境作りを心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市内でいくつものグループホームや高齢者向け住宅を有する総合的な法人が経営し、鉄筋コンクリート2階建て2ユニットのグループホームである。交通の便が良く閑静な住宅街にある。目前には音更町保健センターや、町役場、地域包括支援センターがあり連携が取りやすくなっている。近くにデイサービスセンターやゲートボール場、こども園、小学校、高校があり、環境に恵まれた、利便性のある場所に建っている。コロナ禍で自粛されていた町内会の活動やこども園、小学校への行事参加が少しずつ再開され交流を深めて来ている。事業所周辺の散歩時等で住民から声をかけてもらうなど地域に密着している。また災害時には法人の支援の元、地域住民と連携しながら避難先を確保するなど相互関係を築いている。看護師の配置による専門的、予防的に対応がされており、利用者の健康管理に配慮した支援に務めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社・事業所理念を事業所内の見やすいところに掲示し共有している。 1年の目標を掲げ取り組んでいる。	「地域の方々の『生きる』を支援する」という法人理念を基に具体的な事業所理念を作成し、玄関や事務室に掲示すると共に、職員は研修、会議等で理念の理解に努め、利用者のサービスに反映させている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナのためしばらく交流ができていなかったが、5類に移行してから町内のラジオ体操やお祭りなど少しずつ参加している。	町内会に加入し地域とのつながりを大切にしていたが、コロナ禍で数年間自粛している。5類移行後、町内会のラジオ体操や夏祭り、商工会主催の祭り、こども園の運動会や遊戯会の見学等で交流が再開されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナのため、交流できていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みやヒヤリハット・事故報告を行い、困難事例等について貴重な意見を頂いている。	2ヶ月に1回、書面での会議を本年6月からは対面式で開催している。利用者の状況や事業所の活動、検討事項について報告し、委員メンバーから助言や要望を受け改善につなげていく等サービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月待機者報告を行い、空室情報の問い合わせやサービス困難事例など相談に応じて頂いている。	地域包括支援センター職員とは運営推進会議の委員として常日頃から連携を密にし関係性を築いている。高齢福祉課、生活保護課、介護保険係担当者、社会福祉協議会とは情報共有して日々のケアに結び付けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	目標を掲げ行っている。 施錠は行っていないが、必要な方は人感センサーを使用している。	身体拘束廃止委員会を開催し、外部研修や事業所内での研修会で身体拘束をしないケアの勉強会を行い、日々のケアに活かしている。不適切な言動にならないよう職員同士が声を掛けあっている。センサー等使用する場合は家族の同意を得ている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目標を掲げ虐待防止に努めている。 定期的チェックリストを行い注意喚起を行っている。			

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内・社外への研修に参加し、支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所本部、ホーム管理者とで、時間をかけ十分な説明を行い理解を得られるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への連絡先も掲示している。 サービスの向上になるよう、ご家族の面会時、意見、苦情等を聞くようにしている。	毎月、利用者の様子や行事の出来事などを載せた「しらかばだより」を発行し、担当者が一人一人の写真と様子をメモにして家族等に送付している。家族の来訪時や電話などで意見、要望の把握に努め運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員が発言できる雰囲気を作るよう心掛け出された意見は会社へ提案している。	管理者は職員が会議や個別面談、日常の場面で意見を言ったり、提案できるように傾聴している。職員の意見や提案は検討して運営やケアに活かしている。また、法人の役職者会議の内容も全職員へ周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	いつでも意見を聞ける機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外研修への参加を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修として交流の機会を設けていたが今年度もコロナのため行えず。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中で、何を求めているのか、心の中の不安はどこにあるのか等、聞き取り寄り添いながら信頼関係づくりに努めている。		

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居契約時にご家族の困っている事、不安な事等、ご家族の気持ちを汲み取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	多くの情報を得るべく、病院や支援センター、社協の職員の意見を参考にし、ご家族の考えを踏まえ、より良いサービス利用を受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の状況に合った作業を、自然な形で一緒に話し合いながら何が出来るかを考えてみる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様にも協力して頂けるよう働きかけ、本人の思う事等を伝え、ご家族と本人の橋渡しができるよう共に本人を支えていける関係を築く。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、実施できていない。	コロナ禍で友人・知人の来訪は自粛しているが、友人や遠方の親戚等に携帯電話や手紙、はがきで近況を伝えるなど馴染みの関係が継続されるよう努めている。感染症予防に注意し美容師に訪問してもらい、利用者との馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルが大きくならないように職員が仲介するようにしている。 レクリエーション等を通じ、お互いコミュニケーションがとれるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればいつでも受け入れる事を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりで、できるだけ本人の思いや意向を把握するよう心掛けており、不明の場合はご家族の来所時、電話で聞き取る。得た情報を参考に意向に合った支援方法をケア会議で検討している。	利用者が食べたい物、行きたい所、して欲しい事などの希望を日々の会話や関りの中からみ取っている。意思疎通が困難な利用者の場合は、家族等から情報を得て共有し、日常の表情や仕草などから把握に努めている。	

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者全員の入居する前の生活環境や前事業所、ご家族や本人より情報収集し、職員全員が把握できるようファイルに記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や心身状態の変化など記録し共有しながら対応するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がより良い生活を過ごせるよう、本人やご家族の意見・希望を聞き、検討し計画作成を行っている。 また、入院や体調不良時等には計画の見直しを話し合っている。	家族や利用者の意向を取り入れながら、モニタリングや会議で出た意見を基に、計画作成担当者が概ね6ヶ月に1回介護計画を作成し家族の承認を得ている。また入退院等体調の変化が見られるときには常に現状に即した介護計画を作成している。	本人のケアや体調管理を支援していく上で、薬の管理は重要であり、チームの課題として、誤薬、落薬を防ぐ取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子や日々の暮らしの中での変化など細かく個別に記録し、情報の共有、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況、その時の要望に応じて事業所の多機能性を活かし、包括支援センター、病院、社会福祉協議会などに相談しながら支援できるよう実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりの意向に合わせて必要に応じて各機関と協力しながら実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師と職員対応で定期的に協力病院に受診し近況を報告、医師の指示に基づき健康管理を行い、特変時はその都度ご家族に報告している。また、提携外の病院受診に関しては、近況報告等記載し情報提供を行っている。	かかりつけ医や専門医を利用者や家族が希望した場合、継続して受診できるように支援している。協力医による月2回の訪問受診や歯科医による往診が行われ、常に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を常勤で確保し個々の利用者の健康管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が元の生活に戻れるよう病院側と相談し、早期退院に向けて情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化と終末期の支援については入居時にご家族に十分な説明を行っており、終末期に向けては状況によって早い段階でご家族に相談し話し合っている。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について利用者と家族に説明し同意を得ている。看取りは行っていないが、重度化した場合は、本人や家族、協力医療関係者と連携し、方針を共有してできる限りの支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習・社内研修等を受け、マニュアルを備えている。迅速に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員・利用者と共に消防署と防災会社の協力を得て年2回の防災訓練を実施している。その他に水害や複合避難訓練実施と机上訓練を行っている。また、運営推進会議等でも地域の方の協力を得れるよう働きかけている。	水害及び昼夜を想定した避難訓練を年2回行っている。災害時には法人の支援と近隣住民との災害時協力体制を締結している。災害シミュレーションとして机上訓練も実施している。自家発電機による停電等にも備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに尊敬の気持ちを持って声かけを行っている。誇りやプライバシーを損ねる言葉かけ等がないように職員間で注意喚起している。	入居時、顔写真を広報やSNSに掲載の希望を確認している。排泄や入浴などについては人格の尊重に配慮し、一人ひとりが誇りをもって過ごせるよう支援している。	利用者の尊厳と権利を守ることは必須の事項である。日々の支援の中で常に全職員一丸となって具体的な対応を確認しあい実践されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を引き出せるよう雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースに合わせてゆったりとした時間の中で生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせてながら服を準備し、清潔感のある身だしなみを支援している。行事の時などはお化粧をするなど、おしゃれを楽しめるよう支援している。		

グループホーム しらかばおとふけ (1F あい)

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年に数回、出前の日を設けており、好きなメニューを各自選べれ楽しまれている。	栄養士が献立を考え、職員と一緒に食事の準備や後片付けをしながら食事を楽しめるよう支援している。食事の形態は利用者の状況に合わせて大きさや形、柔らかさを工夫し安全に食することができるよう配慮している。外食、行事食などは好評を得ている。				
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたメニューで1日1500kcal、水分1000mlを目標に無理せず提供している。お粥やキザミ、ミキサー食など、個々に合わせて食事の提供をしている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけでできる利用者は声かけ、難しい方は一部介助で義歯の洗浄等行っている。口腔状況に応じて定期的に協力歯科による口腔ケアを実施している。					
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入し一人ひとりに合ったパッドの種類、排泄パターンを把握し、なるべくトイレで排泄が行えるよう支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表により排泄パターンを把握して、日中は何気ない声かけを行ない、トイレでの自立排泄を支援している。自然排泄ができるよう、食事や水分、乳製品に配慮し、体を動かす事にも意識して支援している。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日適度な運動の実施に合わせて、主治医による便秘薬でのコントロールを実施している。					
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	若干、職員ベースになってしまっているが、職員と密の会話ができる楽しい時間となっている。	週2回の入浴を基本に行っているが、利用者の体調や気分によって時間や曜日を替えたり、入浴を拒む利用者には清拭等柔軟に対応している。入浴中は会話が弾むよう傾聴等している。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさや空調に留意し、個々の希望に沿った寝具等使用している。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を読み理解するよう努めている。処方通りに服用法に合わせ、氏名・日にちの読み上げを服薬前に必ず行っている。処方方法に間違いが発生した場合は、記録し担当医師に報告し指示を仰ぎ、薬剤師にも報告している。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	衣類等の畳み、テーブルの消毒などを分担して仕事を行い。外気浴、かるた、点つなぎ、計算プリント、塗り絵など気分転換になるよう工夫をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類になり、飲食を伴わない短時間の外出を行っている。 天気の良い日はドライブに行ったり、玄関先での外気浴を行い楽しんでる。	感染対策を取りながら、道の駅に行ったりアイスクリームを食べに行くなど利用者の楽しみを大切にしている。近隣のコンビニへ出かけて気分転換をしたり、感染症対策をしながら事業所周辺の散歩や畑に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は難しいため、利用者のお小遣いは施設で管理している。 不足している物、本人が希望している物があれば職員が代行して行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時は、電話をかけた手紙を出すなど意思疎通を図れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策のため定期的に換気・消毒を行っている。 1人ひとりに合った環境作りを行い、心地よく過ごせるよう心掛けている。	ホール内は広々としており、エアコンが設置され壁には行事の写真や利用者と共に作成した季節感ある作品が掲示され、利用者はゆったりと過ごしている。温度、湿度、換気等には1日3回チェックする等不快にならないように、また感染症対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由にテレビを観たり、気の合う方同士でお話ができるようテーブル等の配置を工夫し、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置き、心地よく過ごせるようにし転倒などの危険性が少ないよう工夫している。 また、ご家族や本人が作った作品などを飾っている。	入居時に本人・家族の要望をもとに馴染みの家具等を持ち込み、心地よい空間作りにも配慮している。ベッドや家具の配置も利用者の身体状況に合わせるなど転倒予防に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできること、やりたいこと、得意なこと、に目を向け尊重し、見守りながら協力している。 安心・安全にできるだけ自立できるように居室等の環境整備を心掛けている。		